

2005 FJ1600 鈴鹿シリーズ

■3月4日 金曜日 雨→曇り フリー走行

この日は朝から雨が降っていました。
雨は走行ライン等に、自分独自の走り方があってその走り方でずっと攻め続けていました。

タイムは総合的にトップタイムで走れていて良かったのですが、自分の中では他のドライバーとのタイム差等を考えたら「もっと速く走れるな」と思い、走行の途中から新しいラインを試みたりしました。しかし、それを試し始めるのが少々遅く、雨が止み路面が乾いてきてしまったようです。すぐさまレインタイヤからスリックタイヤに替えました。タイヤを替えるタイミングなどは、チームオーナーの服部尚貴さんにアドバイスをもらいながら走りました。

スリックタイヤに替えてからもタイムはトップタイムを維持、自分のフィーリングも良い感じで走行を続けていましたが、数周後、先行車との間隔を見誤り、接触を回避したことで、自分がクラッシュをしてしまいました。クラッシュは、絶対してはいけないことだったのですが、このクラッシュで、午後からの貴重な練習走行を走れなかっただけでなく、メカニックの人達にも余計な仕事を増やしてしまいました。申し訳ありません。

■3月5日 土曜日 晴れ フリー走行

朝から晴れていて、昨日自分のミスで走れなかったドライタイヤでのセットを試しながら走行しました。セッティングも大分決まってきたファーストセッション、セカンドセッションともにトップタイムを記録、このレースウィーク最後の練習セッションに入りました。

このセッションは、前回使用した中古タイヤと NEW タイヤの違いを感じ、本番の予選、決勝に使用するタイヤを選ぶことに費やしました。両方のタイヤを交互に履き、タイヤの温まり方、タイヤを替えたときのマシンの挙動の違い等から、ドライバーとしてのインプレッションを報告し、オーナー含め監督スタッフと協議し前回のレースで使用した中古のタイヤで予選、決勝を走ることに決めました。

■3月6日 日曜日 晴れ 公式予選&決勝

公式予選（15分間）

今年初の予選では、参加台数が36台と例年に比べ多く、A組B組の2グループに分かれて予選を走る形式でした。
このレースウィークを走ってきて「落ち着いて自分の走りが出来れば、予選でもかなり良い位置にいける」と思っていました。自分の中で予選15分間の使い方や他のマシン、路面、コース内など回りの状況を考え、走り始めました。走り始めてすぐにベストタイヤが出せ、前日にチームオーナーや監督と検討したタイヤの選択が間違っていなかったことが実感出来ました。
タイムを出せたことで余裕ができ、去年1年間の経験も生かして予選開始か10分間は常にトップタイムを維持出来ました。その後は他の予選アタック車に詰まり、一時は2番手に落ちましたが、落ち着いて最後にクリアラップが1周取れ、この1周に集中して自身初めのポールポジションを獲得することが出来ました。
このポールポジションは、この体制を作って頂いたチームオーナー、監督、メカニック、応援して頂いているスポンサーの皆様のおかげで取れたことを深く感謝し、自分の力を出し切れたという嬉しさを噛み締めました。

決勝（20周）

レース前に服部尚貴オーナーや館監督とミーティングをして、自分の悪い部分である「気合いが入り過ぎる」点を指摘してもらい、自分でもびっくりするくらい落ち着いて決勝に臨みました。フォーメーションラップでは自分のペースでしっかりタイヤを温めて、いよいよ決勝スタート。

シグナルレッド・消灯・スタート！

スタートタイミングはバッチリだったのですが、後続車を気にしすぎシフトアップのタイミングが少しづつ遅れて、1コーナーで1台にパスされてしまいました。続く2コーナーでは2台併走で入ったのですが、自分のラインがなくなりコースからはみ出て3番手になってしまいました。去年までの自分ならここで熱くなり、その後もミスをいっぱいしていたと思いますが、その経験を踏まえ、冷静さを失わず3番手をキープで走れました。

周回を重ねていくと自分のペースが先行車2台より速く、トップから自分までテール to ノーズ。最終コーナーをきれいに立ち上がれば2台をパス出来そうです。9周目に最終コーナーから前車のテールに近づき、1コーナーでパスしようと思いましたが、先行車が最終コーナーで単独スピン、そのスピンの巻き込まれ、一緒にスピンしてしまいました。その間2台に抜かれ、4番手までドロップ、それでも気落ちせず、再スタート後、先行車に少しづつ近づき遅いところをしっかりと捉え、落ち着いてパス3番手に浮上。そこからファステストラップを記録しながら先行2台を諦めず追いかけます。しかし、周回遅れの処理に手間取ったりしたため、3位でチェッカーを受けました。

3位、初表彰台だったのですが、予選から考えるとすごく悔しかったです。けれど去年の悪い経験を踏まえ、同じミスを繰り返さなかったことと、今回のトップグループで競えた自信と共に、更に高い位置への課題とします。また、服部尚貴さんという目標の人からすべてを学び、次こそは優勝、そしてシリーズチャンピオンへと走って行きます。

今回は、自身初のPP、3位表彰台と関係皆様のおかげで、上々のスタートをきることが出来ました。今後ともより一層の精進を続けがんばります。ご指導、ご支援よろしく御願いたします。